



二葉州集雨寅寒秋之部

黄花并升六編

七月初

七月

七月の本れる時よく物も

瑞馬

七月や時よく生ははくそは

芦丈

七月や風もまはれあふ萩は

萩末

所とりせふそや七月の夜乃

雨芳

七月を鳥乃多ふ秋の形

比良

又力や人のつられそま

留之

立秋

秋をさるる月おあふれ

八寅

お中れ秋もたつねは

仙芝



鶴橋

おれよふらりさるるくおる橋

千新

秋糸

流すすきおる糸の秋糸

道臺

天川

天れ川やうまなつてゆき

高心

おれ林といはあつて天れ川

真心

川を流して流るるてぬる天の川

重塊

その山のもくかろおる天乃川

五粒

松子乃流もあつて何ぞ松

芥丈

たろ孔てもく何り天乃川

字拍

峯入

峯入や浮世お卯乃秋の凡

蕉葉

初月

ハ秋よさく梅指すゆおね

子新

さるおるくく生るる初月秋

仙掌

盆月

流るるおのほおるるるお盆

魚心

流るるおのほおるるるお盆

子新

子市

その市や人れおるるるお盆

完未

門掃くる市愛さめるるお盆

白雁

その市や人れおるるるお盆

無為

老姥

大原やいづらもあつてお盆

子新

老姥菴浦を流るるお盆

秋未

老姥菴浦を流るるお盆

五箇

切新

老のいのお盆のころお盆

牛後

牛後

秋風

秋風の響きもさあめのかげり
秋すくし海もさあめりるのこ
秋さくし秋のこもる秋ありし
雲霧も角さくし秋のこ
霞霞の秋さくし秋の風
秋風れも秋さくし秋の風
きれもさくし秋のこ
はりも秋さくし秋の風
秋風れも秋さくし秋の風
秋風れも秋さくし秋の風

蕉葉
比良
白涯
重舌
丹化
素葉
空境
若々
秋風
秋風
秋風

初嵐

初嵐の響きもさあめのかげり
初嵐すくし海もさあめりるのこ
初嵐さくし初嵐のこもる初嵐ありし
雲霧も角さくし初嵐のこ
霞霞の初嵐さくし初嵐の風
初嵐風れも初嵐さくし初嵐の風
きれも初嵐さくし初嵐のこ
はりも初嵐さくし初嵐の風
初嵐風れも初嵐さくし初嵐の風
初嵐風れも初嵐さくし初嵐の風

嵐角
山嵐
舊頂
作家
越山
比良
牛後
仙阿
初白
秋風
秋風

秋風

かけりしきりしるよきて秋の風
入おもはるぬ里の秋の風
秋乃ははけりやと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風
秋乃やききとと秋の風

研支
冬令
明之
宗徒
植露
圃丈
八千
斗後
巨白
兵里
菊男

秋雨

稲妻

雨の程多き秋の風
本根を洗ひ出さる秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風
雨の程多き秋の風

正徳
麻仏
氷石
武陵
漢字
嵐角
楽堂
方之
氣男
ぬ白
三塊

秋山

暮らぬ一竹の秋の山

正古

竹里

菊也

まよふ花も秋ある山

瑞鳥

秋川

あふくを流す秋の川

升六

あふくを流す秋の川

文角

あふくを流す秋の川

仙草

秋水

あふくを流す秋の水

升家

あふくを流す秋の水

白駒

あふくを流す秋の水

白駒

あふくを流す秋の水

吹風

あふくを流す秋の水

吹風

一葉

ゆき葉をこぼしたる一葉

道字

ゆき葉をこぼしたる一葉

宇柏

ゆき葉をこぼしたる一葉

淳水

教柳

教柳をこぼしたる人

白駒

教柳をこぼしたる人

升家

教柳をこぼしたる人

血外

教柳をこぼしたる人

梅山

教柳をこぼしたる人

春和

木槿

木槿をこぼしたる人

茶丸

木槿をこぼしたる人

大基

木槿をこぼしたる人

仙草

稻花

萬代の秋と成らういねのふ
津奥のひろき田に稲のむ
山深くささおさうして稲の花
露のねもたう白ひる稲のむ
稲乃ふられ八家もの夕ア
新風のまへ海へ吹やねのふ
涼き水満れとさる一稲のふ
日乃はしして秋のささく鬼灯
唐草の平さかすや夜かりし
老のまよふあちのう根さき風は
とまよふとさるうらむは

合長 園南 若身 杜由 梅遊 瑞言 梅山 文南 瑞言 桐極 白涯

西風

松杉の風やうらむ西風の
山のまよふ月を雲隠れハ雲も
ゆるり鳴し人念入るゆわのれ
鳴笛の二十日もの一舟おの
吹鳴や嵐を雲乃るのまあ
中奏や水波の合れはまき
戸吹れハまはううこむの
おとやあしは別よまそのれ
あ日やわたりまああし
一度ハおのまのまきんくす
まよふまのまのまきんくす

比良 月化 板書 桂島 仙洲 勢二 芦月 嵐角 瑞言 橋屋 宇栢

蟻

田圃の白きつらむる山代	秀ト
老多れけりけをきし一田圃の白	松横
松のくはありけをきし一	真心
角切く秋の草入ちうらうら	二有
待宵也知よあちう一樹乃実	升六
待宵の露をつき知れあはる	未旭
名月のあまことほきぬき木之乳	柏香
名月も外回の朝とちうらうら	表塔
名月や秋の松もあまきし	嵐丈
名月も秋乃たけし夜もあま	仙芝
名しとや秋とありしと秋乃を	波水

今月	名月のもあまきし	楓洞
	二名月も秋乃たけし夜もあま	香々
	名しとや秋とありしと秋乃を	素人
	海と山ありしとやけり月	生白
月見	月見の人まはれと名月	小寅
十五夜	いさよひの月をきし	升六
	十六夜もあまきし	仙子
	あまきしと月をきし	紙山
	いさよひや秋をひねる	素人
	露ありんく月水はいさよひ	香々
	いさよひの月をきし	升六

初沙

さつ沙や浅路まぢらふおの山
初沙や鹿の山 三心極乃下
さつ沙のさつと紅経海れ存
初沙くさきさきやき瑞山う那
さつ沙と金御守ゆる破る葉
八月やもはえ霞さく秋乃くれ
命はえ阿れく毎りあまの香
川鋪。松さくさく秋乃く色
海路くも戸口はら乃秋の香
さつ沙のさつと大敷もらく秋の香
隣はもさくさくおく秋のくれ

金糸 白涯 燕柳 梅丸 生白 古梁 大基 奥心 文角 斗文 小合

秋香

あちさくし教えの安て秋乃くれ
油乃さあに何やらはわく燈の香
栂林はさくさくの山く秋乃くれ
耳くさよ人の来くさく燈の香
秋乃くあさくさくさく秋乃くれ
不二やさ山くさく秋乃くれ
水たさくさくさくやあさくれ
さつ沙は果物さく燈乃くさく那
くれやすふ秋のわはさくさく
所沙のさくさくも秋乃くさく
家さつ沙のさくさく秋のさくさく

花陽 鳥居 菊友 習之 安之 乙如客 二松 彦字 孝象 冬根 秋屋

芒

おろして汚芽の毒もぬくひ
お水の隈りも忘れぬ
望みも
西乃そ
志つる所
一口のり
何れも
月の入る
浮くこと
板ぬく
望みも

戎山
方珠
常川
兼男
鼠角
取白
有管
似水
方舟
た珠
の者

尾花

夕暮を
ふされ
夕月を
はるる
望みも
大なる
旅人の
志つる
世の中

意半
一出
正出
燕團
仙洲
二有
玲る
吾人
板山
お女

芋花

泊時乃世り一きう一と世芋乃不
いふくすぬぬハ時きうて芋花を
夏海鏡の川よりみやくぬるぬるを芋乃

鶺鴒

寒にしやう候くけいししけ
けりやうちきゆをきしし鶺鴒は
あしきあひしきし中れけいし
昔人鶺鴒日く候時ぬちあひし
知中や舊よちうぬけいしし
そみ戸れ鶺鴒たうきし月おは
鶺鴒不害ゆいしちよちいし
けいししし時ゆのちしししし

柳洞

宇洋

左梁

乙怒家

柳洞

伴人

兼也

芦川

逢春

于秋

魯江

菖花

鶺鴒をまよふる春もまよふし
山とれて山ゆりせしししし
菖花ゆきいし瑞ゆはくしし
不菖より秋のせしししし
いししし秋ゆく菖花れしし

石川

石川あはれきうちきゆをきし
川一をせししししししし
雪はししししししししし
雪はししししししししし

雪餘

頂乃林と本たるぬししし
厚よりししししししし

圃丈

春至

板查

氷石

久角

瓜瓠

蛇若

文若

不運舊

菖菜

朱成

稿

燕歸

渡鳥

夕暮や小江初れくさくさ
 月おや面れ春しそ浮るる
 香のありしと物ぬらさるる
 十八かう池うらなてわさるる
 雲の錦文の介さや後を
 山ちねる有縁記きやうらるる
 移るまをさげて春も秋の鳥
 いひさし明てもさし 秋の鳥
 秋乃る鳥子かきくちさるる
 戸はすし秋り別たる小鳥か

圃丈 仙子 嵐角 蘇夢 芦川 相冠 葵風 未杞 冬相根 二有 北澤

秋鳥

荒巻

初雉

河鹿

あく巻のやまきし山乃る
 何したれ西やうちうぬ渡路山
 荒巻やや山跡も 志方林中
 あく巻や又巻さすくみらと
 初雉や木のつらうちう秋の交
 うつ雉や佐後くうらめき文
 初雉も半つより巻や山ちるし
 うらさげくさう 舞雉く山
 初雉もはくれえきまぬ巻
 えくさくさあも 雉山家の秋甚
 月まよ初るをわす秋鳴に鹿

白雁 若葉 連柳 吐風 振香 由未 柳士 二有 白唾 流水 方珠

九月部

九月

後はけいん塔をきかす九月部

西河

その山と夕やけとやさく九月部

聖清

高木松をよほくして坊九月部

比良

長月

七月と八月の細きゆるみ

有管

柔月

柔月のそとちうちうち

喜身

後籠

後籠も何あうら也後の籠

桃源

いぬけも形のそえたる九月部

自築

後乃ひおろすもあまなう

菅見

築公より後うら物うら角丸

二有

築祝

柔

あきまにきくぬけ

升六

あおれと海あきまの山

又南

新しもあおやのまきく

山松

お乃柔や白おまうて

嵐角

ふきくたおらねものハ

瑞言

おあ乃乃時とあ六

た女

ハあきくおあきく

葉風

たきくうゆらく

比良

山風やわらく

乙羽

あきのあ乃あき

羽野

きく知多し

牛後

夕暮をいづらもたぬゆゑも
 人さむまね葉の中はゆき
 朽もくられしをみる紅葉
 塩漬の塩のふねももたら
 夕ぐれ水をはや葉から紅葉
 山のよそをゆく楓ももたら
 夕暮をいづらもたぬゆゑも
 昔もたぬゆゑもたぬゆゑも
 色をえぬまのりなる大河
 夕暮をいづらもたぬゆゑも

一陽
 六
 桃源
 朱
 朱
 朱
 朱
 朱
 朱

十日程風たき秋乃 望
 夕暮をいづらもたぬゆゑも
 朽もくられしをみる紅葉
 楓ももたら
 夕暮をいづらもたぬゆゑも
 昔もたぬゆゑもたぬゆゑも
 色をえぬまのりなる大河
 夕暮をいづらもたぬゆゑも

義
 樹
 菊
 菊
 菊
 菊
 菊
 菊
 菊

北洋
 山
 園
 子
 子
 子
 子
 子
 子

細袋
綿抹

為ぬらう時白ひく秋乃は
珍もや南河内乃夕くり
月之けのくくあきあき

安之
負丸
里桂

崩築

有海工方の水乃細袋
宇治山よまはるくや細袋
朝夕の清きせまうて岩水築

比良
菊石
其松

下館

兼たき秋乃いそぐく
月よりく小鯛にけり
秋たきぬ山又到たる新海

仙芝
文角

新海

新海

あしぬぬあまはるく海
舟の系とあもみたる新海

千歌
蕨水

三二廿

今身茶

泊風の吹かた形く新海
あしなぬらうきおとく
山はくく人あはるく

徐来
坐白
伴亭

石

あしと接更くく泊
すまくと習ひあはるく
あしと接更くく泊

着波
文角

大坂

山々のあはるく
い川のあはるく

奇淵
如園

千石

あしと接更くく泊
あしと接更くく泊

仙亭

あしと接更くく泊
あしと接更くく泊

蘇山
古梁

秋景

くらげのたぐわれぬを人とする
暮れゆくともわかれぬもの百歳
ちりやみせたりゆく秋乃る花
錦千代の口にあはれて秋の
高もゆくゆくもあはれぬ
高もゆくゆくはの河乃る花
つゆりれりゆくゆくはの河
高もゆくゆくもあはれぬ
秋の晩や一枝秋をゆくゆく
とてはあはれぬを道はぬ月

秋

高野

高野

末徹
玉露
未旭
三石
石乳
豊庵
仙芝
菊
牛後
菊

秋

撫きゆくゆくはの河
秋の晩や一枝秋をゆくゆく
入あや敷かて秋のすゆくゆく
心川の秋の雲あすは秋の
秋かゆくゆくはの河
山もや敷かて秋のすゆくゆく
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河
高もゆくゆくはの河

秋

魚心
玉露
白冠
碓夷
梅並
枕雲
高野
乙於海
士朗
朱紀
白屋

秋
新秋

鳥さえおろしきなごの秋
秋やうらふしきひく新
海風や雄ゆく中乃わん麻
新秋の本子あさる夕
ゆく秋をらつとも鳴かす
秋のつらうあさる小
ゆく秋子すけぬき相の島
はくはぬきあさる秋
秋のそらわたりたの山
秋は人うけまふ御
ゆく秋のつらうあさる山

鳥樹
麻乙
山
水
有
長
深
茶
柏
麻
橋

善
冬
冬
冬

秋や最乃中乃乃喜
ゆくゆく秋をらつとも鳴かす
秋のつらうあさる小
ゆく秋子すけぬき相の島
はくはぬきあさる秋
秋のそらわたりたの山
秋は人うけまふ御
ゆく秋のつらうあさる山

吳
南
月
運
南
比

二葉草集丙寅卷秋之部終

二葉草集

